
幸せの定義たち

七紙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せの定義たち

【Nコード】

N9543K

【作者名】

七紙

【あらすじ】

保育園に勤務する主人公、岡本仁哉は異常なほどクールで短気で、そして人嫌い！そんな性格でか、子供に優しく、大人に厳しい。春から、職場が一緒なる月見里愛音や、兄弟と同じ様に育った森川杏奈、年上なのどこか子供っぽい三浦蓮、欠点ひとつの完璧超人伊達桜子など

オープニング

朝、起床とほぼ同時に目覚まし時計を加減なく腕を振り下ろして、叩きつける様にして止める。さすがに起きるためとはいえ、家電量販店で一番うるさい目覚ましを買ったのはまずかったかもしれない。あまりに音が大きすぎて耳が反芻した音がまだ残っていた。自慢できることではないが、自分は朝にとっても弱いので、人に起こしてもらうか、加減なしのアラームくらい出ないとおきることができない。それだけ朝に弱いのだ。

無理やり閉じたい目を開け、部屋を出て、4月の朝の少し冷え切っている廊下を歩くと味噌汁特有のいいにおいが階下の違う二階まで漂ってきていた。今日は早起きの意味なく、だれかが朝食を作ってくれたらしい。匂いをたどりながらヨタヨタと千鳥足よろしく、階段を下りていった。

「もう起きたの？ 珍しい」

開口一番そんなことを言いやがったのは、知り合って7年になる森川杏奈だった。

「今日は、オレが当番をやるうと思ってたからいつもより30分早く目覚ましをかけてたんだ。」

まだ、完全に起きていないためか眠気のせいでまぶたが重い。

「そんなに眠いなら、顔でも洗ってきたら？ 少しは目が覚めるよ。」

杏奈は俺が朝に弱いのを知っているので、心なしか優しい言葉を投げかけてくれた。

「ああ、そうさせてもらうふあ〜〜」

特大の大あくびとたんに湧き上がる強烈な眠気

「さつさと、顔洗うか」

誰につぶやくのでもなく独り言を言いながら、ふらふらとした足取りで洗面台へと向かい肌寒いような気温の中頭からためておいた

水の中につつこんだ。

「ざあ〜むういいい」

歯がガチガチとなり、全身が押さえようとしても無理なくらいふるえて仕方なかったのだが一応は目が覚めた。

「あんた」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9543k/>

幸せの定義たち

2010年10月11日14時58分発行